

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○個に応じた分かる授業の創造と実践 ○基礎・基本の徹底 ○主体的・対話的に学ぶ問題解決的な学習の充実 |
|--|

学力向上検討委員会構成

| | |
|------------------------|---|
| 学力向上推進員 竹岡 玲 | 委員 校長:藤崎 知幸 研修主任:原 拓馬 低学年:竹原 慎弥 中学年:濱名 かおり, 辰野 收平 高学年:原 拓馬 |
|------------------------|---|

校長

藤崎 知幸

伊座利小学校
「学力向上実行プラン」

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|--|--|--|---|--|
| ○計算や漢字については、個人差はあるものの意欲的に粘り強く取り組み、ある程度定着が見られる。 ●身の周りにある物の名前を知らなかったり、日常生活と関連つけて話せなかったりして語彙力が乏しい。 | ・書くこと・話すこと・聞くことを大切に、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。 ・読書に興味を持ち、語彙数を増やし、正しい言葉で文章を書いたり読んだりすることができる。 | ・漢字や計算学習を計画的に行い、ミニテストで習熟状況を確認する。 ・漢字や日記指導・ノート指導などを充実させ、書く機会を増やす。 ・様々な機会を捉え言語活動を取り入れ、書いたり話したりする表現活動の充実を図る。 ・学校の読書環境を生かし、本の紹介をするなど、読書に興味を持てるようにし、語彙力・読解力を伸ばす。 | ・文章題を繰り返し解くなど、問題を工夫したり、書かれている内容を自分で説明させたりすることで読解力を高める。 | ・少人数学級のよさを活かして、一人ひとりの学習状況に合わせて指導することができた。 ・自分の意見の理由を必ず聞くようにすることで、理由を言うことができるようになってきた。 ・読書の時間をとることで、語彙力が上がった。引き続き読書の時間を設定する。 | ・引き続き漢字・計算の基本的な学習を継続し、知識・技能の定着を図る。 ・本の紹介をするなど、読書から学んだ事を生かして図書館便りを作り、読書に興味を持てるようにする。 |

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|---|--|---|--|---|
| ○これまでの経験や知識を生かして、自分の言葉で意図が伝わるように表現しようとする態度が身につけている児童が多い。 ●一人の意見に流されがちで、自分の意見を話すことができない児童が見られる。 | ・児童一人一人が考えを上げ、根拠や理由を明らかにし、自分自身の考えを進んで話したり書いたりすることができる。 ・全校での話し合い活動などで話し手の顔を見て話が聞け、話の内容に反応し、進んで自分の感想や気づきを発表できる。 | ・国語科と関連させながら、問題解決的な学習を展開し、根拠を明らかにして自分の考えを説明するなどの指導をする。 ・定期的な話し合い活動をし、その中で自己決定や集団決定の場を設け、それを表現する機会をつくる。 ・思考ツールを利用し、意見や考えを比較・分類することで、自分の考えを深めたり広げたりする。 | ・話し合いをする機会を設定し、テーマを教員が精選することで、内容に充実感をもたせる。 ・思考ツールを利用した授業の展開に努める。 | ・筋道を立てて考えを自発的に発表しようとする児童が増え、考えをまとめて書くことができるようになった。 ・少人数のため、低学年ではあまり話し合い活動ができていない。全校で場面をとりたい。 ・話し合い活動では、自分の考えをまとめ進んで発表し、相手の意見を大事にしながら意見を言えるようになってきた。友達の意見に流されず、自分の意見に自信を持って伝えることができるようになってきた。 | ・国語科と関連させながら、相手に分かりやすく伝えるための言葉を考え、発表の質を高める。 ・国語科を中心に、特別活動や道徳などでも話し合う場面を増やし考えを伝え合うことができるようにする。 ・児童一人一人が考えを、広げ深められるよう、授業改善に努める。 |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|---|--|--|--|--|
| ○まじめな態度で学習に取り組み、自主学習にも意欲的に取り組む児童が多い。 ●与えられた課題に対して真面目に取り組むが、自らめあてをもって学習に取り組む姿勢に欠ける。 | ・自ら課題を見つけ、家庭学習や苦手な課題についても自主的に取り組むことができる。 ・家庭学習の手引きを利用して、めあてをもって学習することができる。 | ・自主学習の進め方について具体的に児童に提示し、主体的にめあてをもって自主学習や読書に取り組めるように指導する。 ・授業では ICT を活用して児童の興味関心を引くような導入を提示し、写真や動画で記録し職員で共有する。 ・学習の手引きを児童と一緒に考え、定期的に振り返りをする中で、目標を持ったり課題を見つけたり、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。 ・正しい姿勢や鉛筆の持ち方で学習に取り組めるように指導する。 | ・教員から課題を与えることで自分の課題に気付かせる。 ・児童同士で、自主学習ノートを見る機会を設定し、主体的に取り組むことができるようにする。 | ・家庭学習の取り組みについては個人差があるが、苦手なところを意識して自分で考え取り組んでいる様子が見られた。自分で課題を見つけることが難しかったり、家庭学習が定着しにくかったりする児童には、家庭と連携し、知識の定着を図れるように取り組んだ。 ・Teams を活用し、教材や授業案の共有を試験的に行った。 ・家庭学習の手引きについて、有効な生かし方を一年間継続することはできなかった。在り方や使い方を見直す必要がある。 | ・授業ではICTを活用して児童の興味関心を引くような導入を提示し、写真や動画で記録し職員で共有する。 ・学習の手引きを児童と一緒に考え、定期的に振り返りをする中で、目標を持ったり課題を見つけたり、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。 |

令和6年度 学力向上ロードマップ

